

○大庄地区タウンミーティング議事録（概要）

日 時：令和4年7月30日（土）

午前10時から午前11時45分

場 所：大庄地区コミュニティセンター

出席者：63人

テーマ1 自主防災組織について：防災危機管理部

<主な説明事項>

- 1 近年多発する災害
- 2 大山地域周辺の災害特性
- 3 津波について
- 4 防災対策について
- 5 自主防災組織について
- 6 自助（市民の役割）について

【防災危機管理部の説明に対する質問】

・一つ問題に思うのは、組織体制の部分です。地区センター・公民館の下に自治振興会、その下に町内会などいろいろありますが、こうした階層的な組織運営では、いざという緊急事態には連絡などいろいろなものが非常に遅くなり、この部分ではあまり良い組織の考え方ではないと思います。直接きちんとコントロールできる、地区センターや公民館の上の、例えば防災危機管理部から直接的にすぐ末端まで伝わるような仕組みやシステムを考えているのか、すでにあるのかもしれませんが少し見直しされたほうがよいのではと思います。

（防災危機管理課 課長代理）

みなさんに何をお知らせするかということも大事になってきますが、大山地域ですと無線、アプリではTwitter、Facebookなども使っています。

・情報の伝達に対して階層が多すぎるということです。大事な情報の伝達は階層が多いほど遅くなり、間違いが起きます。逆に我々から緊急事態を知らせようとしても、この順番だと非常に遅くなり伝わりません。防災無線はいざという時に本当に（使えるか）どうかも疑問です。震災で壊れて伝わらなかつたり、洪水の時でも聞こえないです。例えば大雨が降った時でも、実際には防災無線は聞こえません。そういうときのための対応策を危機管理する側で考えていただかないと困ります。安否確認についても、安否確認は町内会が行いますが、どう収集していくかうまくシステムを考えていかないと、いざというときに機能しませんので、今後ぜひ考えていただきたいと思います。

・組織体制について、町内会の単位で世帯数が大庄地区でも多いところと少ないところ（があります）。町内単位で自主防災組織を作り、（さらに）連合会を作って上部に繋がるというような組織が良いかと思いますが、十数世帯や二十数世帯で町内会を作っているところで、消化班や誘導班、会長、副会長と役だけを作っていたら他にもう人間がない、ということがあります。（自主防災組織に）最低の世帯数というのはあると思います。以前、婦中（地域）のやり方を見てきて、これを真似ようと連合会を立ち上げ、研修会を行うなど士気を高めてきて、おかげさまで資機材についても昨年約 50 万円の補助を市からいただいて整備させていただきました。（市では自主防災組織を作る上での）町内の最低の世帯数について何か考えがありますか。

（防災危機管理部長）

その地域の特性によってやり方が変わってくるので、特性を活かしながらやっていくしかないかと思います。その地域が二十世帯しかないからというのではなく、隣の地域と協力して役割分担するなどしていったほうがいいのではと思います。

その地域の世帯数によって防災組織が何人かということは決めておりません。

・災害時は自助・共助・公助が大切だということはよく理解できますが、(自助) 3割・(共助) 6割・(公助) 1割という数字は、どういう数字なのか、誰がこの数字を出しているのかお聞かせください。また、どこかの避難訓練か何かでリヤカーを使って高齢者を避難させている写真がありました。このコミュニティセンターにリヤカーはありますか。

(防災危機管理課 課長代理)

避難用のリヤカーがあります。3割・6割・1割の考え方は、阪神・淡路大震災において、倒壊家屋で生き埋めになった方の救出状況を基本としております。この時、自力で脱出された方が34%おり、これが3割に相当します。家族や近所の方々に救出された方が大体6割、それ以外が救急隊など公的機関に救出された方という割合になっており、防災士の教本においても、この時の数字を活かしながら現在に至っているというのが根拠になっております。

・初動はやはり自助・共助が大切ですが、最終的には避難所を開設したりしていくと、公助の割合が高くなってくると思います。そうした中で、避難所に指定されておりながら、残念ながら非常食や機材が十分ストックされていないところが大半ではないかと思えます。そのようなことも見直していただきながら、防災組織をしつかり立ち上げて運営していくのが重要であると思っております。それと以前、新聞に避難所の中でプライベートを守るためのテントが用意されたという記事が載っていましたが、そうしたものの整備状況等も教えていただければと思います。

(防災危機管理部長)

新聞等に載っていたのは避難所開設訓練の話だと思えます。富山市第一次避難所は78箇所あり、小中学校の体育館等を使用しております。第一次避難所には最低限の備蓄品を用意し、テントは大きさによりますが5~7個あります。食料や水は第一次避難所には入っておらず、市内26箇所の備蓄倉庫に用意しており、災害が起きた時にここから運び出すことになっております。

・防災対策で気になるのは、行政がこの自主防災を支援するためにどのような対策を行っているかということです。昭和44年8月11日の洪水で、大山地域の山の地域はどうなったかということを実際に知っているのでしょうか。まるで孤立していました。住民が避難できるような体制が非常に大事だと思います。特に大山は山の地域なので、道路の整備をしていないと避難できません。早めに道路が通れるうちに安全な場所に避難したほうがよっぽど安全ですし、今は車で避難する人がほとんどだと思います。大山地域を見ていると、道路の少ないところを通行止めにしてあります。特に、瓶岩橋をなぜ通行止めにして、放置しているのか説明してください。

自治振興会について、要望を出しても、行政が返事しないからわかりませんが、返事が返ってきません。合併前は直接行政に町内から要望を出していましたが、いつの間にか自治振興会経由にしてくださいと言われ、途端に何の返事も返ってこなくなりました。

(市長)

昭和44年8月の豪雨では、大山地域の山村集落のみならず、八尾・細入・山田地域やその他の山村集落についても孤立や通行止めがあったと伺っております。私は県会議員を10年間やらせていただいたので、おかげさまで各中山間地を回らせていただき、年配の方から特に不便があったと、道路は大事だと、今のような話をお聞きしたところであります。そういうこともしっかり資料として残っていると思いますので、再度富山市職員として勉強させていただきたいと思っております。

それと、瓶岩橋はかねてから落橋の可能性があり、亀裂等が入っております。今現在の状況だと、いつ落橋しても不思議でないという危険度になっておりますので、通行止めをしながら経過を見ていたところであります。できればあるものを使ったら良いわけではありますが、橋が落ちる危険性が高まっておりますので、皆さんに我慢していただいて、ご説明もしながらやむを得ず通行止めにしていたというところでもあります。

あと自治振興会を通して要望を挙げたのに回答がないということについて、なるべく丁寧に回答するように指示をしておりますが、今のご意見も持ち帰りまして、

地域から自治振興会を通して上がってきた要望については必ず回答するように再度確認を申し上げたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

・昭和 44 年の洪水の時に橋が流出したほか、あの地域は土砂崩れで道路が通れない状態となりました。瓶岩橋は防災においても非常に大事な橋にも関わらず、通行止めになっています。災害に備えすぐに対応すべき橋ではありませんか。

(市長)

落橋の危険性が高まっているということで、市のほうでは撤去するという方針を示しており、これは長い間示している方針でありますので撤去いたします。このことをはっきり申し上げておきます。それで、これは道路区間であり、県道には含まれた橋だけが市道区間となっております。市道認定はそのまま残して、将来に可能性を残しておくということでもありますので、今、瓶岩橋が落ちれば、その下流域の飲料水なども含めて、かなりの市民の生活に影響が出ますので、この橋を撤去することについてはどうかご理解をいただきたいと思います。

テーマ 2

特定健康診査・後期高齢者の健康診査及び特定保健指導について：福祉保健部

<主な説明事項>

- 1 富山市民の健康寿命
- 2 特定健診、後期高齢者の健康診査、特定保健指導
- 3 特定健診、特定保健指導の重要性
- 4 富山市の特定健診等（令和 4 年度）

【福祉保健部の説明に対する質問】

・特定健診等が非常に重要であることをよく理解しましたが、私は病院で定期的に血液検査をしており、特定健診を受けておりません。病院の先生には、血液検査を

年に何回かやれば大体予防的な判断はできますよ、とおっしゃっていただいております。そうはいつでも、ほかの要素もありますので特定健診は重要だと思います。受診率が低い理由は、土日に健診ができないところに問題があるのではと思いますし、過去に献血をした際、美味しいものをたくさんいただきましたが、特定健診も何かそのようなものを用意すると、また行ってみようという思いになり、そのぐらいのものを用意しても医療費削減につながれば大きなメリットになるのではと思います。病院で定期的に審査を受けている方は特定健診の対象から外すなどしてもいいのではという気がします。

(福祉保健部長)

健診を受けるためのインセンティブになるような策は、確かに大事なこともかもしれません。全国で行っている事業ですので、他の様子なども参考にしながら検討させていただきたいと思います。

また、病院に通っているから健診を受けなくてもいいのでは、ということについて、確かに病院と特定健診の検査項目は、同じようなところもあると思いますが、違うところもあつたりします。血液検査の内容は一緒かもしれませんが、年に1回ですので、病院での検査と同じ数字だったという確認の意味にもなりますし、またそこで新たな何かが出てくる可能性が無いとも言えないので、ぜひ特定健診に参加していただきますようお願いいたします。

・説明を聞いて、健診を受けようという気になったかという、健康でずっと長生きできればベストですが、自分がそこまで健康を求めるかという点で考えると、あまり行こうという気になっていません。どちらかといえば、(早い段階で)健診を受けていると医療費が安く済みますよ、という部分が一番響きました。自分が健康でいることで医療費を節約でき、これからの若い人たちの負担も減りますよ、という訴え方のほうが、健康で長くいなければいけない、お金がかからないようにしなければいけないという意識が芽生えるので、多くの人に響くのではないかと思います。

それと健診を受けることは無料ですが、(事業) 自体には費用がかかっている、行かないことが(事業費の) 節約になると思っていた部分もあり、そこがあえて行かなくてもいいとなる理由の一つでもあります。それを天秤にかけてどちらが結果的に得かわかりませんが、自分の健康よりも先々の負担、やがては自分たちに返ってくる話だと思うので、そういった部分が気になりました。

(福祉保健部長)

病気というのは徐々に進行していきますので、健診を受けていただきたいとしか言いようがありませんが、健診を受けないでこの病気にかかるとう将来これだけ病院でお金を払わなければいけませんよ、ストレートに個人負担だけでこの金額ですよ、というような表現や周知の仕方は良いご意見だったと思いますし、若い方にも響くよう、どのように広報したらいいのかということも検討させていただきたいと思います。

【その他意見交換】

・地域の皆さんから強い要望があり、ぜひこの場で発言して対策を求めてほしいということだったので申し上げます。

大山地域全域で害獣、ニホンザルを中心に被害がかなり出ております。これは専業農家さんではなくて家庭菜園をやっているような人たちが、ジャガイモや収穫期に入ったとうもろこしを取られてしまったということがあり、なんとかニホンザル対策を市で進めていただきたいということです。いろいろ調べると、富山県ニホンザル管理計画第5期というのが新しくなり、今年の3月に見直しをされております。その中にいろいろ管理をこのようにやりますよ、頭数管理をきちっとやりますよと書かれていますが、書かれていることだけをやってもサル被害は減らないのではないかと思います。というのも、この中にはいくつかの群れがあり、これをきちんと管理していますという話だったのですが、大山町の猟友会の会長さんに伺いましたら、サルの群れは40頭ぐらいが大体の規模なのですが、上滝に現れるサルは65頭以上、70頭近くいるよと。そういうところからみても、県のほうで管理して

いるとおっしゃいますけども、どうもよくチェックできていないのではという気がしています。

それで 60 頭の群れの中にはかなりの数の子ザルがおり、どんどん増えていく傾向にあるだろうと思いますので、もう少し頭数管理をしっかりとやっていただいて、我々がサルと共生したいという気持ちはありませんけども、うまく付き合っているような中山間地域にさせていただきたいということです。他県ではかなり管理をうまくやっているところもあるようですので、そのようなところも調べていただいて、ぜひ中山間地域で楽しく生活できるようにしていただければと思います。

・サルもその通りですがイノシシも大変な状況になっています。ここ数日あちこちで大きな穴を掘り、サツマイモが全部取られてしまったと嘆いていた方がいらっしやっただので、サルとともにイノシシの対策もお願いいたします。熊野川の近くにたくさんいます。

・大山文化会館は、なぜこれを有効に使うのではなく壊さなければいけないのでしょうか。合併してからまるで次から次へと壊すだけで、地域振興はどうなっているのでしょうか。

道路整備においても、有峰林道が整備されていれば 41 号線の迂回道路になります。富山県で県外とつながっている幹線道路は非常に少なく、整備すれば非常に利用しやすい道路なのに、なぜ整備を率先してやらないのでしょうか。有効な開発をすれば、いろいろな人が来るようになり地域振興に非常に良いと思います。

(大山地域自治振興会連合会長)

有峰林道につきましては県の事業になりますので、私共の自治振興会連合会でも県のほうに直接、建設促進のお願いをしております。

大山文化会館につきましては、新しい統合された公共棟が来年 3 月に完成 (2 月末完成、4 月供用開始) することになっており、代替施設となる 300 席ほどあるホールが整備されることになっております。これは住民の皆さんと 3 年ほど前からい

ろいろと意見を伺いながら最終的に合意したわけでありますので、ご理解いただければと思います。

要望につきましては、瓶岩橋のことにつきましても市長さんにも直接お願いもしておりますし、先ほども回答をいただきましたとおりであります。落下の危険につきましては早く撤去しなければいけないという段階になっておりますので、これも十分皆さんにご理解をいただいきたいと思っております。

(市長)

ホールや体育館、学校施設、道路などは、それぞれ地域の住民の皆さんにとって大切な施設や設備、公共インフラであります。しかしながら、市の甲斐性に見合ったような維持管理ができない状態になっております。同じ施設をいかに集約化(していくか)、そして建て替えれば新しくなり、寿命も延びます。これまで個別に地域にばらばらにあったものを集約化することによって地域に賑わいを創出(することもできます)。(大山地域の)複合施設についても地域の方々の声を聴きながら完成を目指しているところであります。

同じようなことを大沢野地域でも行っております。山田や細入、八尾については現存のものを利用しながら改築するという形で、いずれも地元の方々にご意見を伺って進めておりますが、ここは将来の子どもや孫たちにこれ以上負担を残さないという観点からぜひご理解をいただきたいと思います。

道路はおっしゃったように非常に大事であります。できれば全部の道路を住民の皆さんの要望通りに改修できればこれほど良いことはないわけですが、残念ながら富山市では総延長約 3,200km の市道を管理しておりますので、その全部をすぐに幅員を広げたり、どうこうするなど、地域の要望のすべてにこたえていくのは非常に不可能な状態になっております。少し我慢していただければ助かるなあということも含めて、今おっしゃっている道路の必要性も十分踏まえたうえで検討し、皆さんのご理解をいただきながら進めていきたいと思っております。大きな観点から言うと、将来の子どもたちにこれ以上付け回しをしないということでありますので、ぜひご理解いただきたいと思います。

・鳥獣害について、最近のサルは非常に狂暴化しており、なんとか対策をしてもらえないでしょうか。前々から猟友会にも話をしておりますが、やはり人家が近いとせいぜいやっても檻を設置するぐらいだということで、この2・3日も、サルが出てきて、棒やエアガンなど何か手に持っているとすぐ逃げるのですが、素手で何も持っていないと男性であっても威嚇してきて、向かってきます。今まではあまりそうではなかったのですが、ここ数年前から非常に狂暴化しており、大沢野の（農林事務所）農地林務課ではそういったことがあった場合は電話してほしいということでしたが、それでは遅いと思いますので、事前に対策を練っていただきたいです。よろしく願いいたします。

※発言の一部を整理して掲載しています(広報課)